

0 歳児の様子

親子の関わりを広げる支援



聞こえにくい我が子に 言葉掛けしてもなかなか反応が返ってこないと保護者は寂しい気持ちになります。「どうやって関わったら良いのでしょうか」「どうしたら子供と楽しく遊べますか」などの悩みを聞くことが多いです。

乳幼児教育相談では 子供たちが笑顔になる遊びや関わりを保護者に提供できるようにしています。親子でたくさん触れ合って遊んだり、教員が表情豊かに話しかける様子や遊ぶ時の関わり方のモデルを示したりしながら支援しています。



1・2 歳児の様子

制作活動～いろいろな素材を扱う～



小さい頃からいろいろな素材に触れることはとても大事です。乳児期は手や口にあたる感触や感覚から様々なものを受け入れ、それが何か分かるようになります。体の発達とともに、手指も上手に使えるようになってくると身の回りにあるものを触って遊ぶようになります。その過程で紙、粘土、絵の具などに触れる機会をたくさん作って、それらの素材を自分で様々に扱えるようになることが大事だと考えています。繰り返し遊ぶ中で「破る」「ちぎる」「伸ばす」「丸める」「塗る」「描く」などの言葉も覚えられるように親子で丁寧にやりとりしてもらいます。





水遊び



水遊びも回を重ねてくると、水の感触を楽しむだけでなく、いろいろな道具を使って遊ぶようになってきます。水車の羽根に水をかけると水車が回ることが分かると、どこにかければ早く回るか何度も試したり、水鉄砲の使い方が分かると、遠くまで飛ばそうと繰り返し遊んだりする様子がうかがえます。子供と一緒に遊びながら、遊具や道具の使い方を伝えてもらい、子供が自分で使えるように何度も遊びます。水遊びを通して、水の性質や力を感じ取る経験が将来、学習の基礎になることも保護者に伝え、遊びの大切さを分かっています。



子供に伝える 子供とやりとりを楽しむために

写真カードの作成と活用



絵本や写真に注目できるようになった頃から、子供に分かるように伝える手段として写真カードを使います。身近な人や場所、物を写真に撮って、保護者が使いやすいように、大きさや様式を考えて準備します。上記の写真（左）は〇児がよく遊びに行く公園です。出かける前に「〇〇公園に行こうね。」「滑り台で遊ぼう」等と写真を見せながらお話しします。家の外の場所の写真は赤の台紙、人は青の台紙に貼って、後で分類できるように工夫したそうです。

御家庭の生活様式に応じて、お子さんが目にする身近な写真を見せながら、伝えるようにしています。

体験カードの作成と活用



子供とのコミュニケーション（やりとり）ができるようになってくる頃、子供が経験、体験したことをしっかり言葉で表現できるように（言語化）するために体験カードを作成してやりとりします。

教員：（写真を指差し）これ だれ？

〇児：〇〇（自分の名前） ばば

教員：（ばばと〇ちゃんと一緒に）どこにいったの？

〇児：（海を指差し） つめたい ばしゃばしゃ

教員：海にいったのね。

〇児：うみ いった つめたーい



教員：（写真を指差し）これ だれ？

〇児：じいじ ばあば

教員：（じいじとばあばと一緒に）どこにいったの？

〇児：こうえん いった

教員：（公園で） なにして遊んだの？

〇児：（写真を指差し） しゃぼんだま ふーした いっぱい ふーした おおきい パーンした（割れた）

手指の操作を促す 楽しい手作りおもちゃの紹介



乳幼児教育相談では、お母さんだけではなく、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん等、御家族にも来ていただき、お子さんのきこえやコミュニケーションについてお話させていただいています。写真のおもちゃは、運動機能の発達がゆっくりだった〇君が1歳児の時、「手指を使って楽しく遊べるといいですね。」という話を聞いていたおばあちゃんが、作った手作りのおもちゃです。100円ショップ等で安価で手に入る素材で作ったものです。〇君は何度も何度も遊んでいるうちに手指の使い方がとても上手になりました。手の使い方が上手になると、遊びや物への興味関心も広がってきました。

おばあちゃんのアイデアが満載で、楽しんで遊べて、手指の操作も上手くなるおもちゃの紹介でした。城南分教室では、このような子育てに参考になることも保護者の皆さんに伝え共有しています。

